

第96回 鳩ノ巣溪谷

事務局長 磯川 賢
2020年8月30日快晴

今年の8月は本当に暑かったですね。さらに、新型コロナウイルス感染防止のために多くの方がマスクを着用されていて、例年以上に熱中症の危険性が高まっていました。そんな猛暑日が続いた8月30日(日)、東塗商ハイキング同好会による鳩ノ巣溪谷ハイキングが実施されました。同好会としては昨年12月の忘年ハイキングの後、3月29日のハイキングがコロナ禍により中止となってから今年初めてのハイキングです。(因みに私自身は雨の鋸山ハイキング以来2年ぶりの参加です。)

今回の参加者は幹事の磯部さん、若林さん、石井さん、そして大井さん、乾さん、原夫人、青年部の高橋さん、前々事務局長の山本さん、私の9名です。

集合は JR 青梅線の鳩ノ巣駅に午前10時15分です。自宅を早めに出て、東京駅で中央線快速に乗り換えて、新宿に向かいました。新宿に着くと、ハイキングのお知らせにあった新宿8時20分発の「ホリデー快速おくたま5号」が荻窪駅での人身事故の影響で、運休になるとの構内放送が聞こえてきました。

運よく、乗っていた中央線快速が「青梅特快」でしたので、このまま乗って行けば間に合うと判断した矢先、新宿を出たところで追い打ちをかけるように、行先が変更になる可能性あるとの車内放送です。青梅駅9時41分発の奥多摩行きに乗り継がないと完全に遅刻です。遅刻者には痛いペナルティが課せられるというハイキング同好会の「鉄の掟(おきて)」が、わたしの脳裏を横切りました。

覚悟を決めて、そのまま乗っていると、さいわいにその後は行先変更の車内放送もなく、無事に青梅駅に到着しました。やれやれひと安心と乗り継ぎホームに向かうと、若林さん、乾さん、山本さんの姿が眼に入りました。ところがその他のメンバーの姿がありません。これは半数以上のメンバーが遅刻かな？と不安と期待が入り混じった気分です。普通電車に乗り替え、鳩ノ巣駅に到着しました。改札口を出ると、磯部さんのここにこした顔が飛び込んできました。よくよく確認すると他のメンバーも全員先着しています。さすがはハイキング同好会の皆さんです。余裕をもって行動されているなど感心した次第です。

前置きが長くなりました。駅舎の前で恒例の集合写真を撮影してから、午前10時20分いざ出発です。天気は快晴、気温も35℃を超える猛暑日となるとの予想です。今回は鳩ノ巣溪谷の遊歩道を歩きます。多摩川の清流が流れ下る溪谷風景を眺めながら、川床の岩畳を歩き、コースの最後に奥多摩温泉「もえぎの湯」で汗を流すという暑いシーズンにピッタリのコースです。溪谷に沿って延びるJR青梅線でいうと、鳩ノ巣駅から終点の奥多摩駅までの2駅分の区間を約1時間半で歩く予定です。

ここで少しうんちくです。江戸時代、この辺りには上流から一本流しで送られてくる木材の大規模な貯木場があり、その材木を筏に組む土場とともに飯場小屋が建てられたそうです。その飯場に祭った水神社の森に2羽の鳩が仲睦まじく巣を営んだ様子が、働く人々の心を和ませ、いつしか鳩ノ巣飯場と呼ばれるようになって、これが地名になったのだそうです。

さて、駅舎から右手に進み、すぐに左手に川に向かって結構な急坂を下りると鳩ノ巣小橋に出ました。この吊り橋の上からは多摩川が削った深い溪谷が一望できます。私にとっての多摩川は二子玉川あたりから川崎の河口あたりのイメージが強く、これが同じ多摩川かと思うほど溪谷の美しさが目に飛び込んできます。橋を渡って川の右岸に延びる小道を進みます。川床に下り、川岸の地形に応じて上ったり下ったり、ここで先ほど渡った鳩ノ巣小橋を見上げると、灰褐色の岩肌と大きな木々の緑に晴れ渡った空とのコントラストが素晴らしく、ここに涼風が吹き抜ければ文句なしなのですが、残念ながら水辺の近くは若干暑さが和らぐような気がするだけで、少しも涼しさは感じられません。川床の道を上流に向かって進み、急な石の階段を登ると、上にはちょっとした広場があって東屋のある休憩スペースになっていました。歩き始めてからまだ30分も経っていませんが、私はもう汗びっしょりです。一息入れてから、川から離れ、少し進むと白丸ダムに着きました。時刻は11時少し前です。

この白丸ダムは1963年にできたダムで、重力式コンクリートダムという型式になるのだそうです。ダムの上から下流方向を眺めてみると、なにやら緩い階段のようなものがありました。「魚道」という魚が高いダムを遡上できるように魚の通り道が作られているそうです。「魚道」は見学もできるのですが、そのためには貯水面の高さまで下りていかなければなりません。どのくらいの魚が遡上しているか興味はありましたが、誰も下りてみようと言い出しませんでしたので、結局わからずじまいでした。

白丸ダムからは、多摩川右岸の溪谷沿いを歩いて、数馬溪谷へ向かう予定です。ところが、震災の影響で、ずっと通行止めのようなようです。やむを得ずダム本体の最上部を通過して対岸に出て、青梅街道を歩きます。ここからは車道を歩きます。車がすぐ脇を通っていきます。しばらく歩くと鳩ノ巣駅の次の駅の白丸駅を過ぎたところで、数馬峡橋に出ました。昼食には早過ぎますし、休憩できそうな場所もありません。集合写真を撮り、そのまま歩くと小さなトンネルが現れました。中は涼しいかと思いましたが、そんなでもありません。さらに、しばらく行くと正面に白い建物が見えてきました。氷川発電所とのこと。上流の奥多摩湖から山の中を貫通させたパイプで引いた水で発電をしているのだそうです。

時刻は、まだ12時前です。楽しみにしていた「もえぎの湯」まであと少しの道のりです。「もえぎの湯」の道標に従って、吊り橋を渡ります。吊り橋の上からの風景も素敵でしたが、皆さん汗びっしょりになりながら、最終目的地のもえぎの湯に到着しました。ところが、建物の周囲にたくさんの方が滞留しています。どうやら新型コロナ対策で、なるべく接触を避けるよう、入場に制限をかけているようです。整理券をもらって待つことにしました。番号が呼ばれてようやく中に入ることができました。

「もえぎの湯」は奥多摩の地下深く、日本最古の地層といわれる古生層より湧き出る奥多摩温泉の源泉100%の温泉です。利用料金は大人が2時間850円で、1時間ごとに追加料金が200円かかります。入場時に靴箱の鍵をフロントに預けて、帰る時に滞在時間をチェックして靴箱の鍵を返してもらうシステムです。入場規制をしていましたが、脱衣所はもちろん洗い場も浴槽も結構な込み具合です。さっと汗を流し、皆さんと一緒に食事処に行くと、ここもかなりの混雑です。高橋さんが手際よくセルフで食券を購入し、ビールとなるべく早く出る枝豆や焼き鳥などのメニューを選んで注文していただき、さあ乾杯です。何と言っても湯上りのビールは格別でした。

さて、もえぎの湯を出て、奥多摩駅まで歩きます。距離にすると1kmもなく、ほろ酔い加減で歩くと、あっという間に奥多摩駅に着いてしまいました。

奥多摩駅で解散ということになったのですが、ここで終わらないのが、アフターハイキングです。「駅の近くに美味しい蕎麦屋があるので、寄って行こう」との乾さんの提案に、皆さん行こう行こうということになり、乾さんを先頭についていくと、なんということでしょうお目当ての蕎麦屋はお休みです。しかたなく奥多摩駅に戻り、ようやく解散となりました。ところが、あきらめきれない乾さんは「折角、奥多摩まで来たのだから、玉川屋の蕎麦を食べて帰ろう」と再提案、この意見に賛同した5名(もちろん私も)が奥多摩駅から五つ先の御嶽駅で途中下車し、駅から徒歩一分程度のところにある「元祖手打ちそば玉川屋」に向かいました。

この蕎麦屋は大正4年創業の老舗で明治時代の民家を活かした風情ある茅葺き屋根が目印です。席が空くまで待つこと約30分、待っていた甲斐がありました。山菜をつまみにそば湯割りの焼酎を美味しくいただき、メの手打ち蕎麦は大満足でした。

最後に余談になりますが、皆さんと一緒に御嶽駅から東京駅まで直通の電車に乗り、やれやれこれでひと眠りできると、うとうとしながら電車に揺られていると、拝島駅に着いたところで「西国分寺駅での人身事故の影響により、拝島駅止まりになります。」との車内放送。運転再開の見通しがわからないので、ここで下車し、接続している西武鉄道に乗り換え、新宿駅経由で帰宅することになってしまいました。

行き帰りの電車でトラブルに巻き込まれた一日でしたが、ハイキングは天候にもメンバーにも恵まれ、大変楽しい一日となりました。また是非参加させてください。

次回のハイキングは5年前に行った八王子城から北高尾、明王峠経由相模湖で行けなかった部分を走破する北高尾山稜りベンジハイキングだそうです。かなりしんどいコースとのことですので、次回のハイキング同好会の報告が楽しみです。